



ハエはどうして手や足をこするの

手足のそうじをしている

ハエが何かにとまっているとき、6本の足のうち、2本ずつをときどきもち上げ、その足をこすり合わせているのを見かけます。

これは、ネコが顔を洗い、大切なアンテナの役目をする、ひげの手入れをするのと同じようなものです。

ハエは、うんちや、くさりかけた物の上や、べとべとした食べ物の上などに、よくとまります。そのたびに、ハエの足の裏には、これらのべたべたした物が、くっついてしまいます。これを、こすって、きれいにしているわけです。

ハエの足の先には吸ばんがついている

ハエが天井などに、長い間、とまっていたら、ハエの足の先に、小さい吸ばんのようなものがついているためです。この部分によごれがついていたりすると、足がうまく吸いつけなくて、ハエは、かべや天井にとまれなくなります。

こん虫の足の先や触角は、だいじなアンテナ

こん虫の触角や足の先は、においをかいだり、味を見たり、音を聞いたりなど、虫にとって、大切なはたらきをする部分です。アリやスズメシなど、ほかの虫でも、触角や足の先を、口でかむようなようすが、ときどき見られます。これらの部分のよごれを、きれいにし、感覚がにぶくならないようにしているのです。（監修・中山 周平）

